

1 学校教育目標

「確かな学力と豊かな心、健やかな身体を育み、自主と自立の精神を養い、地域社会に貢献する自立した人材を育成する。」

【参考】校訓：自律・挑戦・感謝

- 自律＝基本的な生活態度と礼儀・マナーを正し、節度と規律ある行動をとる。
- 挑戦＝目標を持って挑戦と努力を継続し、自信を身につける。
- 感謝＝相手を尊重し、思いやりの心で行動し、感謝し、感謝される喜びを知る。

自律、挑戦、感謝の精神で身や心を成長させ、大空(社会)に飛翔する。

2 本年度の重点目標

『明るく、いきいき、笑いのある学校づくり』

キーワード ～ 新しい自分の発見と楽しい学び ～

- ①自律精神の育成 : 挨拶、清掃、部活動及び校外活動(社会性)、基本的な生活習慣、CCCP力
- ②基礎学力の定着 : 少人数指導、学び直しの時間、全教科での語彙力強化
- ③進路保障 : 3年間を見通し、目的と方向性を踏まえた進路指導、各種講演会、校外見学会、進路学習
- ④キャリア教育の推進 : 1年・・・「産業社会と人間」、2年・・・「インターンシップ」、「修学旅行」 3年・・・「課題研究」
- ⑤指導力の向上 : e-learningによる職員研修、青翔式アクティブラーニング、ICTの利活用、教育相談(不登校・発達障害対応)の充実
- ⑥地域連携 (総合学科の系列を生かした連携活動)
玄海町からの制作依頼(美術系)、名護屋城博物館での「日韓交流史」、韓国語スピーチコンテストへの参加
生活福祉系列の介護実習
(海洋教育に関する校外連携)
玄海町内保育園、玄海みらい学園、大志小学校との連携
(生徒会活動)
玄海町民会議での意見発表、わんぱく相撲や花火大会、福祉施設夏祭り等でのボランティア活動、
玄海町産業文化祭への出品
(地域・保護者への広報) 青翔ニュースの全戸配布、HPの充実
- ⑦いじめ問題への取組 : いじめの未然防止と早期対応(SNSに関するHR指導、個人面談、アンケート、人権講演会等)

※CCCP力＝コミュニケーション力(伝え合う力)、コラボレーション力(協働力)、チャレンジする力、プレゼンテーション力(提案力)

3 目標・評価

①自律精神の育成 : 挨拶、清掃、部活動及び校外活動(社会性)、基本的な生活習慣、CCCP力

| 領域 | 評価項目 | 評価の観点 (具体的評価項目) | 具体的目標 | 具体的方策 |
|------|----------------------|--|---|--|
| 教育活動 | ○環境整備 | ・環境美化に関する生徒の意識は向上したか。 | ・生活環境における生徒の美化意識を向上させる。 ・校内を快適な学習環境となるよう整備する。 | ・さわやか清掃活動(校外ボランティア活動)を前・後期各1回実施する。 ・ゴミの適切な処理とトイレの使用について指導を徹底する。 ・美化係を中心とした活動を定期的に行う。 |
| | ●心の教育 | ・思いやりの心の育成ができたか。 | ・クラス担任との情報の共有や保護者・SC・専門機関との連携、協力体制を密にする。 ・HR活動等とおして、心の安定を図り、コミュニケーションが上手にとれるようにする。 | ・生徒理解と情報共有のための職員研修や前・後期各1回の教育相談フォーラムを開く。また、SCの助言を得て関係機関との連携を図る。 ・心の健康のためのLHRを実施する。 ・コミュニケーション力の向上のための職員研修を行う。 |
| | ○生徒指導 | ・対話・会話を重視した生徒指導を実施し、落ち着いた雰囲気や学校生活を送ることができたか。 | ・挨拶のできる生徒の育成 ・敬語で話すことのできる生徒の育成 ・ボトムアップで主体的に学校づくりに参加する生徒の育成 | ・職員間で情報の共有を行い、生徒に対して多くの職員がいろいろな角度から生徒にアプローチを行う。 ・教員側からも挨拶するように心がけ、敬語については、言い直しをさせるなど、その場で指導していく。 ・クラス討議や生徒総会では、青翔高校がさらにレベルアップするための話し合いを生徒にさせていく。 |
| | ○読書指導 | ・本に親しむ生徒を育成できたか。 | ・学校図書館の貸出冊数が、1人平均6.0冊以上にする。 | ・図書委員が中心となり、配布物、掲示板、放送などを使った広報活動を行う。 ・生徒登校時の閉館日を年間5日以内にする。 |
| | ○基本的な生活態度(礼儀・マナー)の育成 | ・挨拶や敬語を意識した言葉遣いを心がけさせることができたか。 | ・部活動の生徒を中心に自ら挨拶ができる生徒を増やす。 ・目上の方へ敬う気持ちを持たせ、正しい言葉遣いを意識させ、コミュニケーション力を身につけさせる。 | ・生徒会が中心となり、部活動の生徒、HR委員へ協力を依頼し、朝の挨拶運動を行う。 ・全職員の協力を得ながらしっかりとした敬語ができるように意識させ、習慣にさせる。 |
| | ●健康・体づくり | ・望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成ができたか。 | ・朝食をとっている生徒の割合を80%以上にする。 | ・保健だよりや青翔ニュースなどとおして、食育を推進し、生徒・保護者の意識を高める。 |

②基礎学力の定着 : 少人数指導、学び直しの時間、全教科での語彙力強化

| 領域 | 評価項目 | 評価の観点 (具体的な評価項目) | 具体的目標 | 具体的方策 |
|------|-------|---|---|--|
| 教育活動 | ●学力向上 | ・生徒の基礎学力は定着したか。 (青翔タイム、週末課題、少人数指導、成績不振者に対する長期休業中の指導) | ・青翔タイムの活用により基礎学力特に語彙力強化を図る。 ・調査や模試の結果を生徒に配布し、事後指導に役立てる。 ・落ち着いた学習環境を作るため、遅刻・欠席の数を昨年度より30%減にする。 | ・青翔タイムに全職員で取り組み、個々に応じた追指導を行う。 ・調査や模試の結果を迅速に処理し、個人成績票の配布を行う。 ・遅刻者数を減らすために、生徒指導部と連携し、生徒面談、保護者面談等を行う。 |

| | | | | |
|---|-------------------------|---------------------------------------|---|---|
| 教育活動 | ○少人数学級編成 | ・一人一人の実態に応じたきめ細かな指導を行うことができたか。 | ・新しい学校生活に慣れ、目標を持った高校生活が送れるようにする。 ・学習指導においては、理解度に応じた指導を効率よく進め、クラス経営においては、教育相談や進路相談の充実を図る。 | ・ホームルーム、面談などあらゆる場面で一人一人の様子を観察し、声を掛ける。 ・複数の学年での少人数学級編成や、授業におけるTTでの指導の機会を拡大させる。 ・産業社会と人間の授業、キャリア教育を通して卒業後の目標を明確にする。 |
| 学校経営 | ○学校経営方針 | ・重点目標は達成できたか。 | ・重点目標の2つ以上の項目に満足いく結果が得られる職員の割合を80%以上にする。 | ・各行事前や考査前に呼びかけを行い、目標達成の意識を喚起する。 |
| ③進路保障 : 3年間を見通し、目的と方向性を踏まえた進路指導、各種講演会、校外見学会、進路学習 | | | | |
| 領域 | 評価項目 | 評価の観点 (具体的な評価項目) | 具体的目標 | 具体的方策 |
| 教育活動 | ○進路指導 | ・進路希望を達成させることができたか。 | ・生徒が希望する進路を実現するため、また、早期退学や離職を予防するために、キャリア教育等を通して、勤労観・職業観の育成を目指す。 ・進学および就職達成率100%を目指す。 | ・生徒の進路希望や進路に関する適性について、早い段階から職員間での情報共有を行う。 ・各種学校や企業等の関係強化のために、学校や企業訪問を実施する。 ・進路ガイダンス、職業体験などで進路意識を高める。 |
| ④キャリア教育の推進 : カリキュラムの中に『総合学科の理念』を実現 | | | | |
| 領域 | 評価項目 | 評価の観点 (具体的な評価項目) | 具体的目標 | 具体的方策 |
| 教育活動 | ○キャリア教育 | ・キャリア教育が充実したか。 | ・一人一人の社会的・職業的自立に向け、「人間関係形成・社会形成能力」「自己理解・自己管理能力」「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」「専門的知識・技術・技能」に関する能力の育成を目指す。 | ・「キャリア教育支援事業」や地域の力を活用し、総合学科に特化した内容を設定。外部講師による講演会や郷土学習の教材利用、各系列による校外実習等の体験活動を充実させることでキャリアアップを図る。 |
| ⑤指導力の向上 : e-learningによる職員研修、青翔式アクティブラーニング、ICTの利活用、教育相談(不登校・発達障害対応)の充実 | | | | |
| 領域 | 評価項目 | 評価の観点 (具体的な評価項目) | 具体的目標 | 具体的方策 |
| 学校運営 | ○職員の資質向上 | ・教科指導力が向上したか。 (校内公開授業、校内外の研修) | ・学習用PC、電子黒板を含めたICT利活用能力をより高める。 ・いつでも、どこでも、誰でも授業をお互いに見せ合う環境を職員間でつくる。 ・校内外での各種の研修会を年3回以上受講する教員の割合を95%以上にする。 ・生徒が参加しやすい、わかりやすい授業を目指す。 | ・ICT教育を絡めた公開授業を年2回計画しており、他にも校内研修を設定しながら教員相互が授業を見せ合いやすい環境をつくる。 ・校外研修の内容が職員に伝わるよう校内研修を充実させる。 ・青翔式アクティブラーニングの取り組みを具体化する。 ・e-learningを活用した職員研修を完全実施する。 |
| | ○業務の改革 | ・校務の効率化に努めたか。 | ・定例の業務の引き継ぎを効率的に行う。 ・校務の整理や役割分担の明確化、行事の精選等に取り組む。 | ・前年踏襲だけではなく、現在の学校の現状にマッチした取り組みを新たに考えながら校務全体を見直す。 |
| | ○教育の質の向上に向けたICT利活用教育の実施 | ・教職員のICT利活用能力は向上したか。 (電子黒板、学習者用PC) | ・電子黒板、学習用PCを利用した授業を実施できる教員を100%にする。 ・学習用パソコンを利用した効果的な授業を展開していく。 | ・校内の研修を充実させていく。 ・朝自習での利用などを通して、学習用パソコンを利用する機会を増やしていく。 |

⑥地域連携
 (総合学科の系列を生かした連携活動)
 玄海町からの制作依頼(美術系)、名護屋城博物館での「日韓交流史」、韓国語スピーチコンテストへの参加、生活福祉系列の介護実習
 (海洋教育に関する校外連携)
 玄海町内保育園、玄海みらい学園、太志小学校との連携
 (生徒会活動)
 玄海町民会議での意見発表、わんぱく相撲や花火大会、福祉施設夏祭り等でのボランティア活動、玄海町産業文化祭への出品
 (地域・保護者への広報)
 青翔ニュースの全戸配布

| 領域 | 評価項目 | 評価の観点 (具体的な評価項目) | 具体的目標 | 具体的方策 |
|------|------------|--|---|---|
| 教育活動 | ○系列 | ・科目群の授業において地域と連携した授業、活動が行なえたか。 (重点目標参照) | ・各系列の特色を活かし、校外実習や他校との連携などを行う。 ・系列の特徴を活かした地域連携の活動の機会を増やす。 | ・地域連携の場の設定や生徒への案内を行っていく。 ・「産業社会と人間」や「課題研究」、各系列の授業において地域や企業等との連携を行う。 |
| | ○生徒会活動 | ・地域行事への参加と協力が行えたか。 | ・玄海町民会議での意見発表、福祉施設でのボランティア活動、玄海町産業文化祭などへの参加を通じて地域住民との関わりを深める。 | ・生徒会の生徒を中心にボランティア部と連携し、積極的に地域の行事等に参加することで、地域との連携を図り、繋がりを強化する。 |
| 学校運営 | ○開かれた学校づくり | ・広報活動を充実させることができたか。 (公開授業、情報発信) | ・学校HP、掲示板の定期的な更新を行う。 ・青翔ニュース等を通して家庭、地域へ学校の情報を発信する。 ・公開授業へ保護者の参加数を昨年度よりも増やす。 | ・本校の特色を効果的に伝えるために、発信する内容、時期を工夫する。 ・青翔ニュースを家庭や地域にも配布する。 ・各種行事への参加者数を増やすために、事前の情報発信を行う。 |

⑦いじめ問題への取組 : いじめの未然防止と早期対応 (SNSに関するHR指導、個人面談、アンケート、人権講演会等)

| | | | | |
|------|------------|-------------------------------|--|---|
| 教育活動 | ●いじめ問題への対応 | ・いじめの早期発見・早期対応に向けた体制づくりができたか。 | ・いじめ・体罰等対策委員会において、いじめ防止対策等を検討する。 ・事後対応についても迅速かつ円滑に対策をとれるような体制づくりと整備を行う。 | ・学校生活アンケートを定期的に実施しいじめの早期発見につなげる。 ・問題行動発生時には、実態調査や学年集会・全校集会を実施する等の対策を迅速に行う。 |
|------|------------|-------------------------------|--|---|

○本年度の重点目標に含まれない共通評価項目

| 領域 | 評価項目 | 評価の観点 (具体的な評価項目) | 具体的目標 | 具体的方策 |
|------|--------------------|---|--|---|
| 学校運営 | ●業務改善・教職員の働き方改革の推進 | ・組織的に合理的な校務運営に努め、教職員の業務量の標準化を目指し、健全な心身の維持は図れたか。 | ・学校行事を精選し、役割分担を明確にすることで、教職員の業務負担の軽減に努めとともに、年体取得率を前年度比10%増を目指したい。 ・業務記録票による自発的勤務時間が月100時間を超える教職員数「0名」を目指す。 | ・定時退勤日の実践や校内立入禁止日の設定により日常業務におけるタイムマネジメントを行い、業務効率を向上させる。 ・業務記録票により自発的勤務時間を把握し、長時間勤務の教職員に対しては産業医との面談を積極的に推奨し、ケアに努める。 |
| | ○学校事務 | ・施設設備の維持管理に努めることができたか。 | ・生徒が安全に安心して学校生活を送ることができるよう危険箇所などの早期発見、早期対応に努める。 | ・日頃から定期的に校内外を巡回する。 ・安全点検表を利用し、各担当部署とも連携をとりながら迅速な対応に努めたい。 |

●は共通評価科目、○は独自評価科目